

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第301号
平成24年9月3日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

世界一の金メダル（メダリストたちの言葉から）

校長 鈴木 隆志

猛暑が続いた夏休みが終わり、一学期再開を迎えました。光っ子たちが夏休みの間、大きな怪我や病気、事故もなく、毎日を健康に過ごし、元気に登校してきたことを、何より嬉しく思っています。今年の夏は、4年に一度のオリンピックに熱く燃えた夏でした。それぞれの競技で各国の選手たちが技を競い合う姿に、胸を熱くして応援を続けていました。メダルをかけた戦いに一喜一憂しながら、勝者も敗者も、アスリートたちの競技後の言葉に感慨深く耳を傾けました。

ロンドンオリンピックでは、日本からも76名のメダリストが生まれました。水泳の入江陵介選手の「競泳チームは27人のリレー」という言葉に代表されるように、スタッフを含めたチームの力、家族や周りの人たちの支えや応援について、感謝の気持ちを表す言葉がたくさん聞かれました。

「自分一人だけの金メダルじゃないと、勝った瞬間思った。」（柔道女子 金メダル 松本薫選手）、
「仲間たちがいなければ、ここまで来られなかった。」（サッカー女子 銀メダル 宮間あや選手）、
「この銅メダルを被災された東北の方々にささげたい。」（ハンマー投げ 銅メダル 室伏広治選手）
等々、メダリストたちの言葉は心に響きます。

日本選手の活躍はオリンピックだけではありません。7月にカナダで開催された女子ソフトボール世界選手権での優勝、8月にカナダで開催された女子野球W杯での優勝と、金メダルが続きました。感動はまだまだ続いています。日本で開催中の女子サッカーU-20W杯ではヤングなでしこが活躍しています。8月29日からはパラリンピックが開幕しました。日本からは、17競技134名の選手が参加をしています。アスリートたちの熱き戦いにエールを送ります。

スポーツの世界に限らず、金メダルは文字通り世界一です。光っ子たちにも、世界一の金メダルは手の届くところにあります。「世界一、あいさつができる子」「世界一、頑張るゾウという気持ちが強い子」「世界一、優しい子」「世界一、よく働く子」「世界一、いじめなどを許さない子」「世界一、笑顔が輝く子」…。どんなことでも、世界一の金メダルです。そして、金メダルを目指すのは、それぞれの自分ではあるけれど、光っ子という仲間たちがいることを忘れずに、仲間たち・チーム八小のみんなの中で、夢を追いかけて叶えてほしいと願っています。

卓球団体女子で銀メダルをとった福原愛選手の言葉を光っ子たちにも送ります。「小さいときからオリンピックでメダルをとるのが夢で、夢はちゃんと叶うんだな、頑張ってきてよかったな……。」最後に、2大会連続三冠を達成した世界最速の男、ジャマイカのウサイン・ボルト選手の言葉です。「みんな、おれが苦もなく走っていると言うけれど、来る日も来る日も死ぬほど練習しているんだ。」

終わりにになりましたが、7月20日実施の「葉かげの集い」（青少年委員・PTA共催）に始まり、夏休み期間中も、たくさんの光っ子たちが参加した「ラジオ体操」＜7月23日～31日＞、恒例の愛宕神社金魚市＜7月24日＞、子供も大人も一緒に楽しく過ごす「むつみ台団地夏祭り盆踊り大会（練馬区第七地区祭・光が丘会場）」＜7月28日・29日＞、見事準優勝を飾った「練馬区小学生キャッチバレーボール夏の大会」＜7月29日＞、18名の光っ子たちが参加をした第七地区委員会の「エンジョイ武石」＜7月30日～31日＞、愛宕神社での田柄婦人会主催「盆踊り」＜8月5日・6日＞、田柄地区区民館グラウンドでの「田柄えんにち」＜8月25日＞、ゆりの木団地での「ゆりの木夏祭り」＜8月25日・26日＞、Uプラザ駐車場での「神明商店会夏祭り」＜8月26日＞と、保護者の皆様、地域の皆様方には、大変お世話になりました。心より、感謝申し上げます。